



2017年度 エプソン情報科学専門学校 実行計画 / 最終実績自己評価

学校長

印鑑省略

学校評価項目	<p>【学校創立の原点】 設立趣意書より抜粋 エプソン情報科学専門学校が全人的教育により、高度情報化社会をリードする中堅技術者の育成に傾注できるように努力していく覚悟である。</p> <p>設置趣意書より抜粋 また、単に、技術的に優れた人材の育成だけでなく、教養科目の時間をできるだけ多くとり、心と技術の調和のとれた、全人的教育を目標とする。</p>	<p>教育理念とは 三心：通いあう心、信じあう心、ひたむきな心 三共：共鳴、共感、共働（協働）の感性 三学：自学、究学、徹学の態度</p> <p>教育方針とは 1. 通いあう心、信じあう心、ひたむきな心の育成 1. 共鳴、共感、共働（協働）の感性の育成 1. 自学、究学、徹学の態度の育成</p>	<p>【中期基本方針（2015～2017）】</p> <ol style="list-style-type: none"> セイコーエプソンと密接に連携して、最新の実務知識、技術、技能を身につけられる実践的な教育を目指す。 生き残りをかけて、学科を再編し、経営の安定、自立を目指す。
①学校の教育理念・目標			

分担	学校評価・項目	推進項目		到達目標（期待される成果）	実績および最終自己評価	
		No.	No.			
共通	④学修成果	1	退学者の削減	1 目標：昨年実績以下 チャレンジ目標：退学者ゼロ	昨年度に対して減少。安易に見切る学生が多い、将来の見通しなしで退学する。 取支ともに予算内で目標達成の見込み。	△
	⑧財務	2	経費削減・ムダの排除	1 予算目標の達成	教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会の規程・基準も整備完了し、機能し、運用されている。	○
	②学校運営	3	「職業実践専門課程」の定着化	1 各種仕組みの精査、定着化を実施する。	中間評価では3.6ポイントが0.1ポイント悪化、次年度に向けて改善する。	△
	②学校運営	4	学校評価の向上	1 前年度評価点以上を目指す。	1月末で新職員室改造、移転完了。3月末で教室移転が完了。	○
	⑥教育環境⑧財務	5	南校舎統合	1 2018年度で統合完了する。	違法上は大きな問題なし。	○
	②学校運営⑥教育環境⑨法令等の遵守	6	違法対応・安全衛生管理環境活動の強化	1 問題を発生させない。		○
教務部	③教育活動	1	「5年後10年後に会社になくてはならない人材」を目指した育成	1 前年度の課題を明確にし、習熟度別クラス、エプソン特進クラスの成果を実感する。学科長およびホームルーム担当としての学生の学習状況の把握とフォローアップする。 2 グループワークによる課題解決を通じて、チームワークを体験学習する授業を全学科にて導入する。課題への継続的な取り組みを通じて、目標達成を体験させる。	成績・人物評価を見ながら特進クラスメンバーの入れ替えを実施、モチベーションが高く、良い人材を送り出す準備が行えた。ビジネス科では専門科目においても習熟度別授業に取り組み、実力に見合った知識を身に付けさせることができた。 情報電子機械科においても複数科目でチームでの取り組みを行い、成功体験を得ることができた 情報システム科では引き続きエプソン情報化メンバーに成果発表に参加いただき、お客様視点での活動の大切さを実感することができた。	○
	③教育活動	2	教える力の向上(どうやって身に付けさせるか)	1 独自学習、通信教育、セミナー参加、資格取得等に1つ以上取り組む非常勤講師および自身の授業評価(授業評価アンケートや面談)による実践状況把握と改善 2 常勤/非常勤、学科の枠を超えてお互いの授業を参観して授業方法に改善を加える。授業評価アンケートによる学生満足度を向上させる。	授業のやりくりをしながら、全員ではなかったがセミナー参加や資格取得に挑戦することができた。 学校長や事務局長による、通常の授業とはことなる形態の授業を参観し、新たな視点での授業形態のヒントを得ることができた。	△
	⑤学生支援	1	コース、学年を越えて交流し、共に協力し合う人間性の教育と達成感の共有	1 全員参加によるスポーツ祭と三心祭の完遂。全員が参加できる競技、出し物の検討と実施を促す。全員が恩恵に預かれる費用分配。 2 年間を通し、無理のない部活動の支援を実施。新規登録の申請があれば、学校としても積極的に支援。 3 校則、寮則などの重大違反なし。授業以外のイベントにおける遅刻・違反欠席者を低減(1回平均1人以下)。	6/1本社体育館にて「スポーツ祭」実施。11/3「三心祭」実施。三心祭ではチーム対抗でスポーツ競技を行った。両イベントともにHR単位でチームを編成し、学科、学年を超え全員参加で行われた。ビンゴ大会では参加者全員に賞品が行き渡った。 フットサル部の復活、卓球部の新設を認め、計6つの部(フットサル、卓球バスケ、ロボット製作、パドミントン、軽音楽)が無理のない範囲での活動を行った。 停学以上の重大な規則違反はなかったが、軽微な違反が数件あり、イベントの無断欠席者はなく、無断遅刻者はざりざり目標を達成できた。	○
	④学修成果	2	学生の資格取得の推進	1 卒業までに余裕を持って必須資格を全員が取得していること。 2 特進クラスメンバーを中心に挑戦させる。	7月までに2年生の必須資格取得が完了した 2年特進クラスのうち数名が、卒業式での表彰される10～30ポイント超を獲得することができた。	○
就職指導部	④学修成果 ⑤学生支援	1	就職内定率の確保とエプソングループをはじめとした専門性を生かせる企業・個人の能力を生かせる企業への就職支援	1 就職内定率95%以上の確保。 2 順調な就職活動のため、周囲の状況なども勘案し、臨機応変に可能な限りの施策を講じる。 3 二か数年本校に対し求人票の来なかった、県内企業に新たなパイプを築くことができた。	1月末時点で内定率98%達成し、結果として98%となり、目標を達成できた。 構内での会社説明会・試験の誘致を計画的に実施し、それによる合格者を多数輩出。 ここ数年本校に対し求人票の来なかった、県内企業に新たなパイプを築くことができた。	◎
入試 セン	⑦学生の受け入れ状況	1	募集者数の拡大	1 募集者数の向上 2 イベント(オープンキャンパス等)参加者数の向上およびガイダンス(説明会)参加者数の向上	地元高校生が就職へ流れ、前半戦は苦戦したが、結果として、昨年実績を上回ることができた。 高校への説明会や会場ガイダンスへの参加者が大幅に増加。オープンキャンパス等に参加者数はのべ人数は昨年より減少したが、実際の参加者数は昨年より増加。	○
事務局	⑧財務	1	経費削減・業務の効率化の強化	1 昨年度以上	予算を下回り、昨年度実績を下回った。	○
		2	会計監査への対応	2 問題を発生させない。	初めて税務監査を受け、関係部門と協力して対応できた。	△